
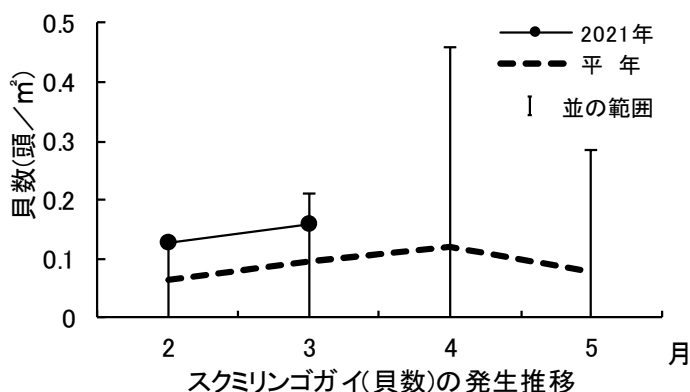


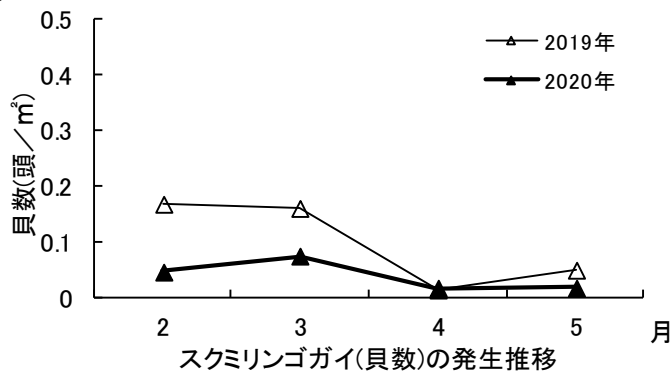
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	① スクミリンゴガイ		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	↗	
		4 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年間の推移



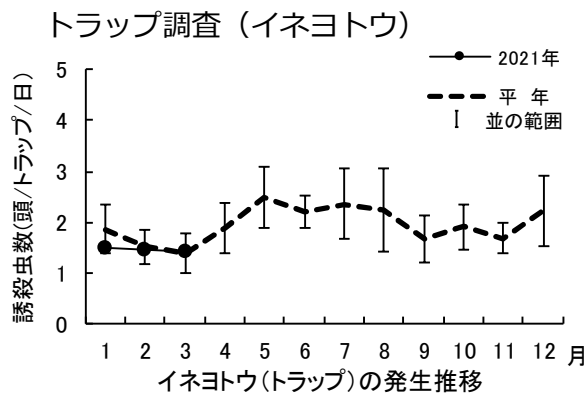
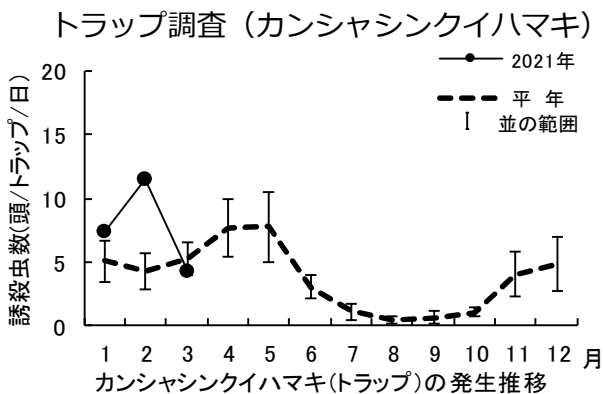
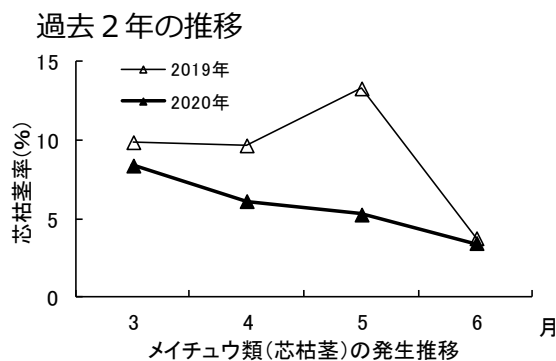
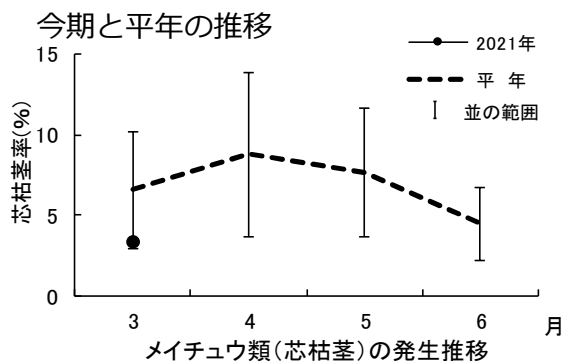
・発生ほ場率：56% (平年値：38%)

防除のポイント

- ・貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。なお、捕殺時はゴム手袋を着用する。
- ・取水口に侵入防止網 (目合6~9mm程度) を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ。
- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。

作物	さとうきび	地域	八重山群島	
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)			並
予報	3 月からの増減傾向			↗
		4 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗)		

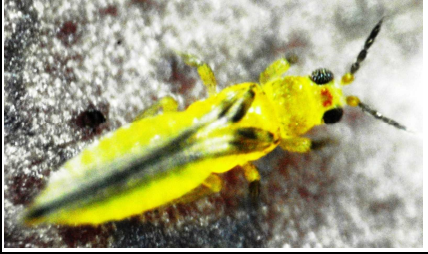
調査結果



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：69% (平年値：93%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、67% (6/9頭) がカンシャシクイハマキ、33%(3/9頭)がイネヨトウであった。
- ・ 病害虫防除員報告：多発生 (波照間島・与那国島)

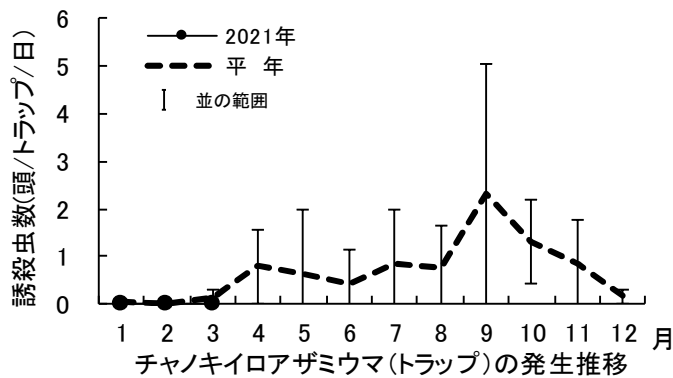
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

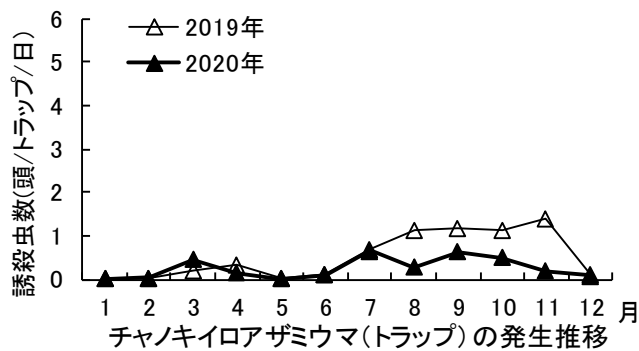
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	—	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移



過去 2 年間の推移




・新梢数が基準に満たなかったため3月の見取り調査データなし

防除のポイント

- ・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・キダチコミカンソウなど、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。

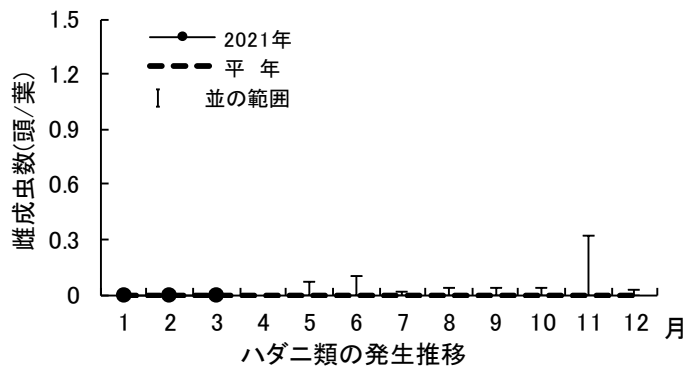


ナガエコミカンソウ

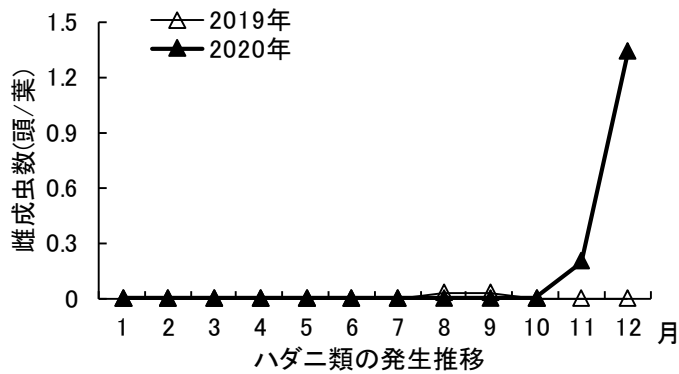
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	→	
	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




- ・ 発生施設率：40% (平年値：11%)
- ・ 一部ほ場で多発生していた。

防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

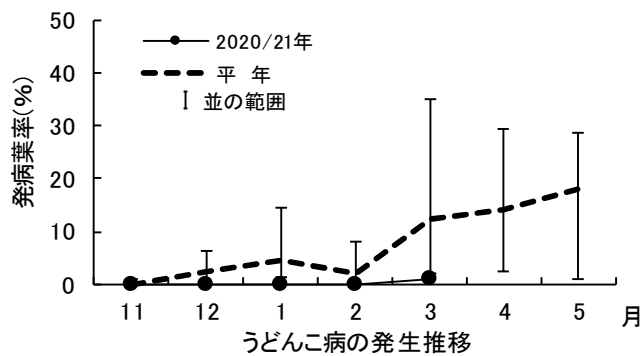


ハダニの寄生による葉のかすれ症

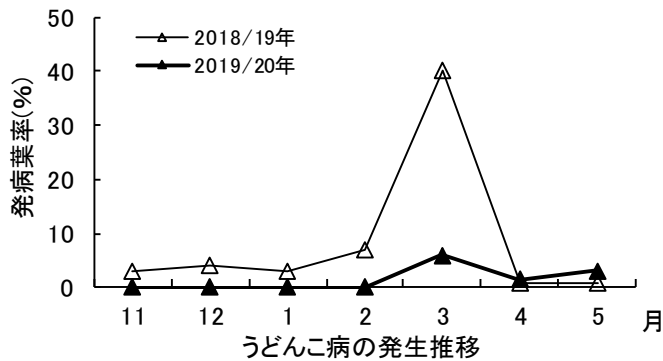
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報	3 月からの増減傾向	↗	
	4 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去 2 年の推移



・発生ほ場率：60%（平年値：83%）

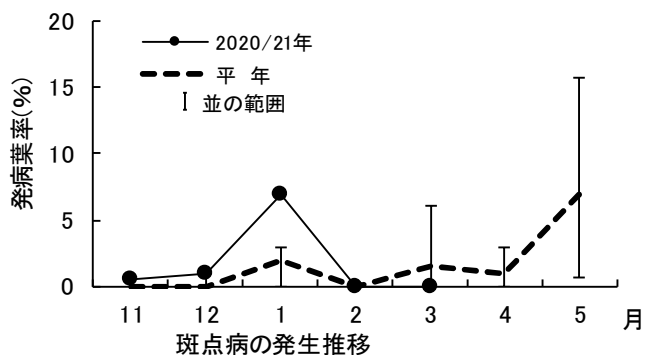
防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

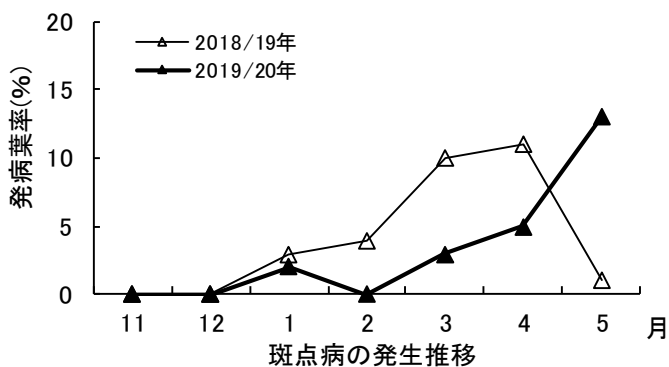
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	① 斑点病		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	→	
	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年の推移



・発生ほ場率：40%（平年値：57%）

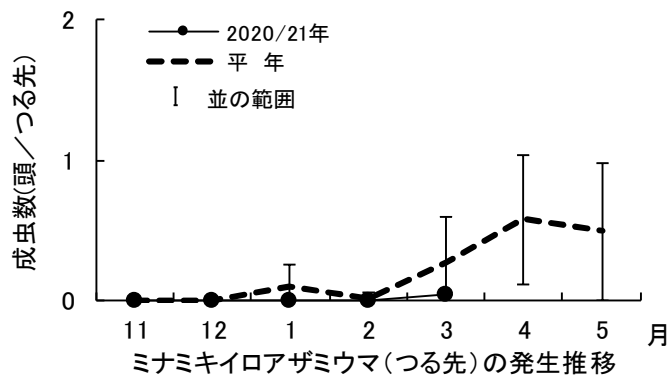
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。

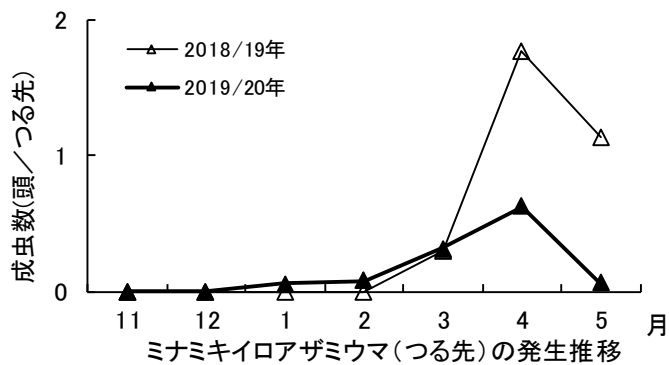
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	↗	
		4 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移



・発生ほ場率：20%（平年値：44%）

防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



果実の被害